

◎処方されたお薬の注意点

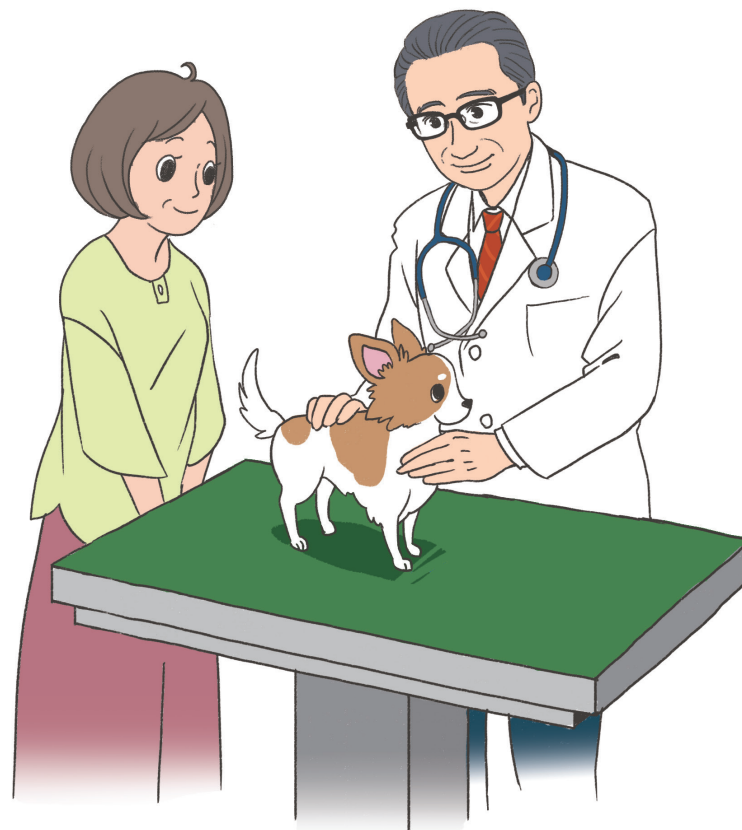
- 先生の指示を守る
決められた量を決められた回数で、きちんと投薬してください。
- ちゃんと投薬できたか確認する
お薬を吐き出していないか確認しましょう。
- 飲み忘れた分を一度に投薬しない
1回程度の飲み忘れて、病気が重くなることはまず考えられません。副作用の原因になりますので、飲み忘れた分をまとめて投薬しないでください。
- 症状が良くなってきたからといって、自己判断で投薬を中止しない

気がかりなことがあれば必ず先生に相談しましょう

そうぼうべんへいさふぜんしょう

僧帽弁閉鎖不全症のワンちゃんのご家族の皆さんへ

一日常生活のポイント



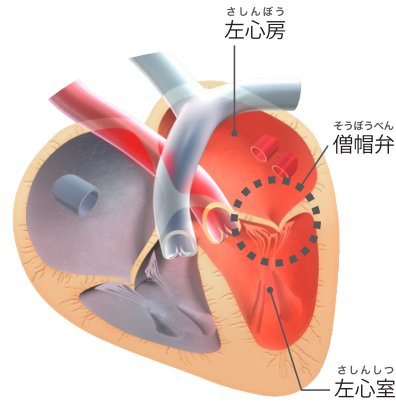
監修：竹村 直行 先生

日本獣医生命科学大学 教授 日本臨床獣医学フォーラム会長

僧帽弁閉鎖不全症とは？

犬の心臓病の中でよくみられる代表的な病気です。

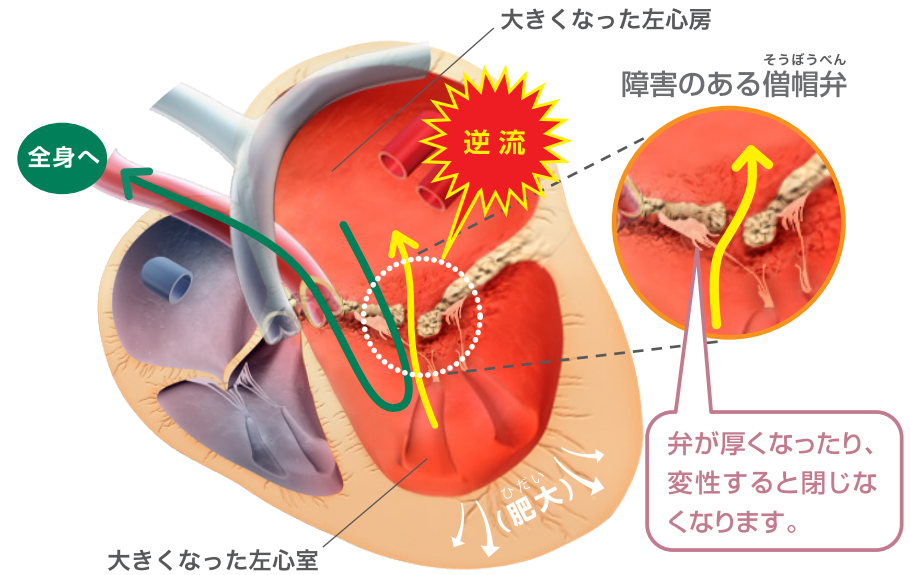
この病気は心臓の左心房と左心室の間にある弁(僧帽弁)が何らかの原因でピタリと閉じなくなります。このため本来の血液の流れとは逆に、左心室から左心房に血液が逆流するため、全身に循環する血液量が少なくなり、様々な症状を示すようになります。



ACVIM ステージ分類 (アメリカ獣医内科学会による心不全分類)

ステージ	分類基準
A	心臓病の発病リスクが高い犬*であるが、現在心雑音はない *キャバリア、高齢の小型犬
B 症状なし	B1 心雑音はあるが、左心房and/or左心室が大きくなっていない
	B2 心雑音があり、左心房and/or左心室も大きくなっている
C 症状あり	肺にむくみ(うっ血)がある
D 症状あり	肺にむくみ(うっ血)があり標準的な治療に難治性を示す

僧帽弁閉鎖不全症の心臓と血液の流れ



血液が逆流することで、心臓から異常な音(心雑音)が発生します。

僧帽弁が老化現象で厚くなったり、僧帽弁を支えている腱索が切れたりすると、血液が逆流し全身に血液が行き渡らなくなるため、心臓はいつも以上に頑張って働きます。そうなると上図のように心臓の壁の筋肉は厚くなったり(心臓肥大)、心臓自体が大きくなり、次第に心臓のポンプ機能は低下していきます。

正常な心音と心雑音を聞いてみよう

正常な心音は「ドクン、ドクン(「ドッ+クン」と2つの音に聞こえる)」、心雑音は「パンパンパン(干した布団を、布団たたきではたくような、速くてせわしない音)」と聞こえます。右のQRコードを読み込んでみてください。



主な症状は？

せき 咳がでる

- 軽度の時は興奮時や軽い運動後にみられる。
- 病気が進行すると安静時にもみられる。
※喉につつかえたような咳に注意してください。



せき 僧帽弁閉鎖不全症の咳が確認できます。

右のQRコードから僧帽弁閉鎖不全症になった犬の咳をお聞きいただけます。

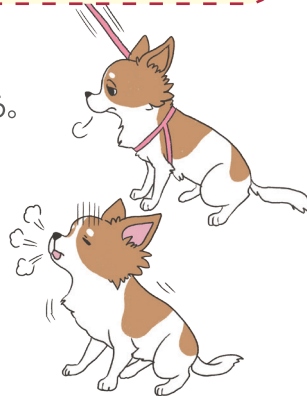


散歩を嫌がる

- 散歩の途中で立ち止まる。
- 興奮すると息が上がる。

苦しそうに呼吸をする

- 呼吸が速い。
※自宅できつろいでいるとき、寝ているときの呼吸が1分間に40回以上になると肺水腫が疑われます。
- 舌などの色が真っ青になる(チアノーゼ)。



その他の症状

脳に血液が足りなくなった場合、ふらつきや失神がみられたり、臓器でうっ血が進むとお腹に水がたまることもあります。



どのような治療があるの？

僧帽弁閉鎖不全症を完治させる方法は、現在のところありません。治療は外科的治療(手術)もありますが、症状の改善と病気の進行を抑えるための内科的治療が主体となります。内科的治療としては食事療法や体重管理、そしてACE阻害薬や強心薬などの投薬が行われます。

そうぼうべんへいさふぜんしょう

僧帽弁閉鎖不全症の治療薬

そがいやく ACE阻害薬 (アラセプリルなど)

狭くなった血管を広げることで、血圧を下げる効果や心臓内にたまっている血液が血管へ移動しやすくなり、全身の血液循環が改善される効果もあります。

僧帽弁閉鎖不全症の犬にACE阻害薬を与えた場合、治療開始からの生存期間が延長した(延命効果)という結果が得られており、ACE阻害薬の本疾患に対する有用性が確かめられています。



きょうしんやく 強心薬 (ピモベンダンなど)

心臓の収縮力を強くしたり、血管を広げる作用をもつ薬剤です。

ACE阻害薬だけでは効果が不十分な場合や咳などの症状がひどくなった場合に加え、最近では症状が出てなくても心肥大が重度な場合にも処方される薬剤です。

この薬剤を投薬された犬は、症状が改善され生存期間が延長されることや肺水腫の再発が抑えられることが確かめられています。



その他のお薬

ワンちゃんの症状によって、利尿薬、
ベータ遮断薬などが処方されます。ご不明な点は先生によく確認してください。



ワンちゃんとの生活のポイント

食事

- 1.主食はできるだけ塩分の少ないフードにすること
- 2.トッピングする場合はタンパク質を選び、塩分の入った食材はトッピングしないこと
- 3.体重減少に気をつけること



体重を増やした方が長生きするの？

心臓病のワンちゃんが体重を落とした場合と体重を増やした場合とで余命を比較してみると、体重を増やした方が長生きできたという報告があります。心臓病のワンちゃんが体重を落とすことで、かえって体力を落として心臓病と闘えなくなる可能性もありますので、心臓病を理由にしたダイエットの必要はありません。

Slupe JL et al (2008) : J Vet Intern Med.22:561

飲水

いつでも新鮮な水を飲めるようにしましょう。
特に利尿薬りによやくを投薬している時は、脱水に気をつけるようにしましょう。

運動・散歩

運動や散歩は全身の血流を良くして、便通を促します。さらに、空腹感を強くして、よく食べてくれるようになります。ワンちゃんが運動や散歩をせがんだら、無理のない程度にさせてあげてください。



定期的なチェック

早い段階からお薬を始めても、症状はゆっくりと進みます。進み具合に応じて治療内容を見直す必要があり、そのためにも定期検査は必要です。先生と相談して、必ず治療スケジュールを立てましょう。

検査の種類：身体検査、血液検査、血圧測定、レントゲン検査、心電図検査、心エコー図（超音波）検査

愛情療法

- 1.食事をちゃんと食べきったら褒めてあげる



- 2.お薬を飲めた時に褒めてあげる



- 3.散歩の時に話しかけてあげる



- 4.テレビを見ながら身体を撫でてあげる



ワンちゃんが喜ぶことや、安心するようなふれあいを「愛情療法」と呼んでいます。